

ダンテ弦楽四重奏団 Dante Quartet

ロンドンを拠点に活動するダンテ弦楽四重奏団は、1995年にヴァイオリン奏者クリシア・オソストヴィッチにより創設。以後、由緒あるロイヤルフィルハーモニック協会賞、BBC 音楽雑誌賞を受賞し、以来クリエイティブなプログラミングと、迫力・説得力豊かな演奏で知られるようになり、ヨーロッパの室内楽ホールや音楽祭などで演奏している。

CD 録音にも注力、フランス印象派、シベリウス、ヤナチェック、ハンガリーのコダーイなど幅広いレパートリーを誇る。2015年、アイルランドの作曲家、チャールズ・ヴィリアーズ・スタンフォードの弦楽四重奏曲第5番と8番を世界初のレコーディング、2016年にソムレコードより発売。

過去10年間、毎年夏に行われているダンテ弦楽四重奏団主催のフェスティバルでは、新曲を発表したり、若い世代の音楽家達を演奏に交えたりしている。海外からもゲストアーティストを招待し、昨年はテーマのハンガリーに因んでハンガリアン・フォーク・バンドと演奏するなど音楽の幅を広げている。2016年秋にはイギリスにて、5回にわたる弦楽四重奏全曲のベートーベン・チクルスを行なった。

ダンテ弦楽四重奏団は2013年より、フランス中部ベルジュラック州で、各国からの優秀な大学生カルテットを4組招待して1週間そのコーチに臨み、素晴らしい環境と食事、ワインを分かち合いながらその育成にも貢献している。

クリシア・オソストヴィッチ Krysia Osostowicz (1st violin)

1995年、ダンテ弦楽四重奏団を創設。ロンドンにてポーランド人の両親の間に生まれた一人っ子で、幼少からヴァイオリンを習い始め、10歳の時、特別音楽学校—メニューイン学校に入学する方針を自ら決める。同校卒業後はケンブリッジ大学にて「語学と芸術の歴史」を選択する傍ら、大学のオーケストラにソリストあるいはリーダーとして頻繁に招かれ、ここでその後のメンバーとなる同士達に出会う。

弦楽四重奏団を1995年に始める前の10年間は、ピアノ四重奏団〈ドームス〉をリードし、自分達で“ポータブルコンサートホール”を運ぶという画期的なアイデアが評判になった。〈ドームス〉、〈ダンテ〉のほか、ソロやピアノとのデュオで発売したCDは30枚以上にのぼり、2つのグラモフォン賞を得ている。

メニューインを初め、アルベルト・リッジ、シャーンドル・ヴェーグ、フェレンツ・ラードシュ等の各氏に師事し、伝統ある東ヨーロッパ音楽作りの影響を受けている。

使用楽器：フランチェスコ・ゴフリラー (1720、ヴェニス)

オスカー・パークス Oscar Perks (2nd violin)

ロンドンを拠点にソロ、室内楽を楽しむオスカー・パークスは、5歳でヴァイオリンを習い始めメニューイン学校入学。11歳の時にBBCとガーディアンが共催する若い作曲家のためのコンクールにて弦楽四重奏曲《The Twin Towers》で優勝し、その後ケンブリッジ大学にて作曲をロビン・ホロウェイに学ぶ。大学院は王立音楽大学ヴァイオリン科を首席で卒業。弟、妹と共に〈パークス・アンサンブル〉を結成。ダンテ弦楽四重奏団には2013年より参加。現在、メニューイン学校にてヴァイオリン、ヴィオラを教える傍ら、作曲や編曲でも活躍している。

使用楽器：ジョヴァンニ・グランチーノ (1700、イタリア)

井上 祐子 Yuko Inoue (viola)

浜松市生まれの三島育ち。国立音楽大学ヴァイオリン科在学中、個人的にヴィオラ奏者・藤原義章氏からヴィオラの手ほどきを受ける。

1978年、今井信子氏に師事するために英国北王立音楽大学 (Royal Northern College of Music－RNCM) に留学。在学中に第17回ブダペスト国際音楽コンクールでヴィオラ部門第1位、特別賞受賞。翌年 RNCM を首席で卒業。オランダ室内管弦楽団にて3年間首席ヴィオラ奏者。その後 1984 年にイギリスに戻り、BBC フィルハーモニックなど多くのオーケストラにて首席客員奏者を務める一方、ソロ活動も行う。ソロ CD であるロマン派曲集

《Romanze》と《バッハ・ソナタ曲集》はグラモフォンやストラドにて最高の評価を得る。RNCM にて7年間教えた後、1997年より英国王立音楽院教授に就任。2013年からダンテ弦楽四重奏団メンバーとなり現在に至る。

使用楽器：J.B.ヴィオーム (1852、フランス)

リチャード・ジェンキンソン Richard Jenkinson (Cello)

若干22歳の若さでアイルランド室内管弦楽団首席奏者として入団、その3年後にはバーミンガム市交響楽団(CBSO)に移り、首席チェリストとして2016年の夏まで勤める。室内楽にも注力しダンテ弦楽四重奏団には2012年5月より参加。また、ピアニスト、ベン・フリスとのデュオを初め、〈フリス・ピアノ四重奏団〉・〈イノベーション・アンサンブル〉などもすでに歴史が長くCD録音も多い。この2～3年は英国ポリス交響楽団の常任指揮者を務めるほか、他からも出演依頼が多い。

フロレンス・フートン、ラファエル・ウォールフィッシュ、ウィリアム・プリースに師事。ギルドホール音楽大学在学中はチェリストに授与される全ての賞を与えられ、フィレンツェにてヴィットリオ・グイ・コンクール入賞。

使用楽器：製作者不明 (1750、イタリア)